令和７年産みえの麦生産改善技術情報　第２報

現在までの生育状況

・麦の生育は、11 月上中旬播種では 9~10 葉期と、平年（過去 10 年）と比べると早いものの、暖冬であった昨年に比べると遅くなっています。
・これは、１月中下旬から２月下旬までの気温が低く推移したことが要因と考えられます。
・そのため、追肥等の作業時期については、昨年と異なるので注意が必要です。

今後１か月の気象（３/15~４/14）※3/13 名古屋地方気象台発表

・１ヵ月予報によると、3/22～28 までの気温はかなり高くなる見込みです。
・麦の生育も早くなることが予想されるので、生育状況を適宜把握し、適期に作業を行うようにしましょう。

今後の栽培管理ポイント

① 適期の追肥を！

止葉抽出始期の穂肥：窒素２～3kg/10a

・収量確保のために重要ですが、軟質小麦（あやひかり・さとのそら）では、出穂期以降に窒素の肥効が高まると硝子粒が発生して外観品質の低下や、製品の加工特性に悪影響を及ぼします。このため、過剰な施肥は避けましょう。

開花期の実肥（硬質小麦のみ）：窒素３～４kg/10a

・ニシノカオリ、タマイズミＲでは、タンパク質含有率確保のため必ず施用しましょう。

② 赤かび病防除の準備を！

赤かび病防除の徹底：適期に**複数回防除**が基本

・**１回目防除：開花始め～開花盛期、２回目防除：１回目防除から 7～10 日後**が効果的です。
・開花前の防除は、効果が劣ります。
・２回目の防除は、耐性菌の発達を予防するため、異なる系統（FRAC コード）の剤を散布しましょう。

【参考】予測される止葉抽出始期および開花期

品種	播種日：11/15			
	予測される **止葉抽出始期**	平年との差	予測される **開花期**	平年との差
ニシノカオリ	3/26	3日早い	4/20	2日早い
タマイズミR	4/1	3日早い	4/29	2日早い
あやひかり	3/26	2日早い	4/20	1日早い
さとのそら	3/25	1日早い	4/20	1日早い
ファイバースノウ	3/27	1日早い	4/18	1日早い

※メッシュ農業気象データを用いた生育予測システム(三重県農業研究所)による予測値です。
※メッシュ農業気象データは、タマイズミRは伊賀市森寺、他品種は松阪市嬉野のデータを使用しています。
※3/17時点の予測値であり、今後の気象により変動する可能性があります。

特に、**開花期は赤かび病の適期防除に重要であるため、必ず圃場で生育状況を確認してください。**

③湿害回避のため、排水溝の連結・補修を！

・出穂期から登熟期の湿害は、登熟不良につながります。

・令和６年産麦では、３月下旬以降の多雨により湿害の発生が多く認められました。

・春先の長雨に備え、ほ場内の明渠、排水路の連結などを徹底しましょう。

周囲溝は確実に排水溝につなげましょう！

明渠内をチェックし、土塊等を除去しましょう。
特に、本作では12月以降の降雨量が極端に少ないため、土壌が乾燥し崩れやすくなっているため注意が必要です。

令和7年　3月　１8日
三重県産麦生産改善技術対策会議